

会 議 録

会議名	令和2年度 第3回 宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和3年2月17日(水) 10:30~11:30
開催場所	宇都宮市役所 14大会議室
出席者	<p>【委員】宇梶哲, 岡本源二郎, 内藤良弘, 成島隆裕, 原千鶴, 樋口徹, 浅海伸子, 増淵祥子, 上野すみ子, 落合正樹, 高橋克彦, 平河内一雄, 河本聖業, 深澤智之, 大八木延子, 高崎光子 計16名</p> <p>【事務局】環境部長, 上下水道局技術担当次長, 環境部次長, 環境政策課長, 環境政策課総務担当主幹, 環境保全課長, 廃棄物対策課長, ごみ減量課長, 廃棄物施設課長, 下水道管理課長, 下水道建設課長, 生活排水課長, ごみ減量課課長補佐, ごみ減量課職員8名, 廃棄物施設課職員1名, 生活排水課職員3名</p>
公開・非公開	公開
傍聴者	—
議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮市一般廃棄物処理基本計画に関する意見への対応について</li> <li>・宇都宮市一般廃棄物処理基本計画に対する答申(案)について</li> <li>・令和3年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画(案)について</li> </ul>
会議結果	事務局(案)のとおりとする。

主な質疑応答	
宇都宮市一般廃棄物処理基本計画に関する意見への対応について	
上野すみ子委員	小中学校での環境教育について、昨今、新聞やテレビで海洋プラスチックごみ問題が取り上げられているが、栃木県は海がないことから、当事者意識が低い児童・生徒もいるかもしれないので、海のない栃木県でも海洋プラスチックごみ問題と深く関わっていることを伝えてほしい。
事務局	海洋プラスチックごみ問題については、県と県内25市町が「 <small>もりきとかわうみ</small> 栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言」を行い、内陸にある本市も海洋プラスチックごみ対策に取り組んでいくことが重要であると認識しており、小学校4年生向けに実施している環境出前講座の中で、児童・生徒に海洋プラスチックごみ問題の重要性を分かりやすく伝えられるよう工夫していきたい。
高崎光子委員	郷土料理であるしもつかれは、料理の残り物を材料として作られるようになったとされており、食品ロス削減の事例として非常にいい。また、リユースについては、那須烏山の和紙の裏紙が奈良のお寺で写経に使われた例がある。これらの栃木県の文化と合わせて伝えるなどすることで、環境教育を推進して欲しい。
高橋克彦委員	東武宇都宮百貨店の食品ロスに関する取組事例として、コロナ禍により客足が減り、食材に余剰が出ることがあったことから、市の保健所や医療機関に届けたことがある。これは、メディアが、市の保健所や医療機関などの大変な状況を取り上げたため、社会貢献が必要と判断し、取組を実施してきた。社会貢献や地域に役立つことであれば、更にこういった取組を推進したいと考えているため、マッチングができる仕組みがあれば、食品ロス対策にも有効なものとなる。

宇都宮市一般廃棄物処理基本計画に対する答申（案）について	
大八木延子委員	資料2 2.（1）と（4）を合わせて、分別講習会の際に、フードドライブの実施を検討しては如何か。
事務局	ご指摘のとおり、分別講習会のように、市民が参加しやすい機会や場を活用することは有効かつ効率的な実施方法だと考えるので、今後検討していく。
大八木延子委員	新型コロナウイルス感染者のごみについては、インターネットを見ると、びん・缶を焼却ごみとして収集し、処理している自治体があるが、本市ではどのような対応を行っているのか。
事務局	本市としては、環境省通知に基づき、感染対策を行っている。 びん・缶類については、通常どおり資源物として収集し、適正に処理を行っている。 なお、びん・缶類が焼却ごみに混ざった状態で清掃工場に搬入されると、施設の故障に繋がるため、収集する段階で、びん・缶類が焼却ごみに入っていることが判明した場合には、ルール違反のシールを貼り、正しい分別の周知を図っている。
内藤良弘委員 （会長）	いただいた意見を踏まえ、本審議会からの答申として良いか。
委員	異議なし。
令和3年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画（案）について	
高崎光子委員	ごみ処理基本計画の基本指標1の「一人1日当たりごみ排出量（資源物以外）」について、どれくらい減らせば目標を達成できるのか、具体例を示すことで、市民に対してわかりやすく伝えられるのではないか。
事務局	ごみ分別アプリや分別講習会・出前講座などを活用して、市民の皆様にわかりやすく伝えられるよう努めている。今後も広く周知を図っていきたい。
大八木延子委員	別紙2の施策事業「プラスチックごみの発生抑制の推進」の中に、新規の取組として、「“プラスチックとの上手なつきあい方”に関する意識醸成、行動変容を目的とした市職員向け行動方針の運用」とあるが、具体的にどのような取組を行っているのか。
事務局	宇都宮市役所が一事業者として、“プラスチックとの上手なつきあい方”に関する意識醸成と行動変容を図るため、職員向けの行動方針を作成する準備をしている。 “プラスチックとの上手なつきあい方”というのは、プラスチックは優良な素材であり、存在を否定するわけではなく、代替可能なものについては、プラスチック以外の素材に替えていくという意味で使用されており、宇都宮市職員が“プラスチックとの上手なつきあい方”を率先垂範していくための方針を定めるものである。
大八木延子委員	別紙4について、令和2年度の剪定枝の見込量が大きく増加している理由は何か。
事務局	南清掃センターの稼働停止に伴い、令和2年4月から、剪定枝資源化事業の回収拠点をクリーンパーク茂原に移行し、令和2年6月から新たに拠点を拡充し、クリーンセンター下田原においても資源化事業を実施している。
上野すみ子委員	プラスチック製品については、どのように処理されているのか。
事務局	プラスチック製容器包装は資源化しているが、プラスチック製品については焼却処理している。

増渕祥子委員	数字に苦手意識をお持ちの方もいるため、計画書本編にあるコラムなどをうまく活用して、市民にわかりやすい説明を心掛けていただきたい。
浅海伸子委員	計画書はどういったところに置かれるのか。
事務局	ホームページや行政情報センターなど、誰でも閲覧できるような状況を作る。 また、改定計画において、普及啓発の推進を強く打ち出していることから、分別講習会や出前講座など、様々な機会を活用して、わかりやすい説明を心掛けていく。
浅海伸子委員	コラムなどがあって非常わかりやすかったことから、広く市民に伝わるように、図書館などにも置いていただくといいと考える。